

## 『 ぱんだより 』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。  
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート  
 第91号(2012年1月31日)中国の携帯電話事情



### 中国における携帯電話の普及

現代社会において、携帯電話などのモバイル通信は日常生活において、もはや欠かせないものになっています。日本の携帯電話とPHS契約数は、2011年末で約1億2千8百万契約<sup>\*1</sup>に上り、単純に人口<sup>\*2</sup>で割ると、一人一台以上の計算になります。人口13億5千万人の中国においても、普及率という面では日本に比べ低いものの、絶対数ベースでは大きく超えており、また急速に増加しています。2010年末時点では8億3千3百万契約<sup>\*3</sup>で、2008年末の6億4千1百万契約<sup>\*4</sup>と比較して、約30%も増加しています。

それでも、中国の携帯電話を所持していない人口は、いまだ数億人に上ると言われており、中国の携帯電話産業はこれからも成長すると見られています。

### 中国の携帯規格

日本ではWCDMAとCDMA-2000が同時に用いられていますが、中国ではこの2つの規格に、中国の電信科学技術研究院(CATT)とドイツのシーメンスが共同研究して開発されたTD-SCDMAを加えた3つの規格がそれぞれ一定のシェアを持って競い合っています。69.6%のシェアを持つ最大手チャイナ・モバイルはTD-SCDMAを、iPhoneを導入して19.9%のシェアを持つチャイナ・ユニコムはWCDMAを、10.5%のシェアを持つチャイナ・テレコムはCDMA-2000を採用しています。この3社は携帯電話のみでなく、通常のインターネット回線の接続サービスにおいても同様に、異なる規格技術を採用しています。

TD-SCDMAは中国でしか採用されていない規格であるため、現在その規格に対応する携帯電話メーカーはあまり多くありません。しかし、急速に伸びている中国の携帯電話市場というパイを獲得するために、モトローラなどの有名メーカーも参入を表明してきています。シャープなどの日本メーカーもTD-SCDMAに対応する端末の開発を進めています。

\*1出所: 社団法人電気通信事業者協会(TCA)(2011年12月現在)

\*2出所: 世界銀行、世界開発指標(2010年現在)

\*3出所: 大和総研(2010年11月現在)

\*4出所: 野村総研(2009年7月現在)

本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。





# 『ぱんだより』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



## 中国のiPhone事情

日本の携帯電話市場では、スマートフォンのシェアが急速に上がってきました。中国においても、“千元知能手機”といわれる、千元(日本円で約1万5千円)前後のスマートフォンが最も売れています。その価格帯の競争は、ほとんどが“酷聯中華”と呼ばれる4つの中国国産メーカーによって行われています。しかし、日本で大きな成功を収めたiPhoneは、中国でも大きな話題を呼んでいます。業界2位であるチャイナ・ユニコムはいち早くiPhoneを導入し、シェアの拡大を狙いました。月次販売数は20万台に達し、さらに約60万人が契約待ちで、日本のソフトバンク同様大きな成功を収めました。また、CDMA-2000規格を採用している中国電信もiPhone導入のニュースがあるなど、iPhoneブームは中国においても更に拡大していきそうです。

### 中国キャリア別契約情報(2011年)

キャリア	シェア	契約数	規格
チャイナ・モバイル	69.60%	5.79億	TD-SCDMA
チャイナ・ユニコム	19.90%	1.66億	WCDMA
チャイナ・テレコム	10.50%	0.88億	CDMA-2000

**中国は独自規格であるTD-SCDMAが最も普及している**

出所: 大和総研、各社公表データをもとにスパークス・アセット・マネジメント作成

### 日中印携帯電話普及率(2011年)

	携帯電話契約数 (百万件)	携帯電話 普及率
日本	128	100.43%
中国	833	61.70%
インド	771	64.74%

**中国やインドの携帯電話普及率は、日本に劣るものの、絶対数ベースでは日本を大きく超え、更に市場が拡大することが予想される**

出所: 各種データをもとにスパークス・アセット・マネジメント作成

(編集後記) 中国でのiPhoneの価格は約6000元(日本円で約8万円)で、上海の平均月収が約5000元であることを考慮すると、とても高額な買い物になります。にもかかわらず、発売当日は1時間足らずで売り切れ、転売市場では倍近くの約10000元まで吊り上げられるほどの人気があるそうです。(GDP48)

※当コラムに掲載された企業は、あくまでも当コラムの内容の理解を深めて頂くためのご参考として掲載したものであり、個別企業を推奨しているものではありません。

本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

